

フィルム型サプリメント「カプフィルム®」が 食べるチカラをサポート — 食事の 20~40 分前の飲用が効果的と実証 —

株式会社山田養蜂場(本社:岡山県苫田郡鏡野町 代表・山田英生)は、岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター(村田尚道助教、後藤拓朗氏ら)による臨床研究を支援し、唐辛子由来の辛み成分であるカプサイシンを配合したフィルム型サプリメント「カプフィルム®」(商品詳細は2頁)の飲用による、嚥下反射機能^{※1}の促進が明らかになりましたので、発表致します。この成果は学術誌「日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌」に掲載されました。

【背景と目的】

食事は、生命の維持や生涯にわたる楽しみにおいて重要な役割を持ちますが、加齢が進むと、筋力の衰えとともに喉頭の位置が下がり、嚥下反射機能が低下するため、口からの食事が困難になります。

嚥下反射が低下すると、誤嚥性肺炎のリスクが高まります。高齢者死亡原因の第3位“肺炎”の約70%が、誤嚥に関係していると言われることから、嚥下を促すことは健康長寿を目指す上で重要です。

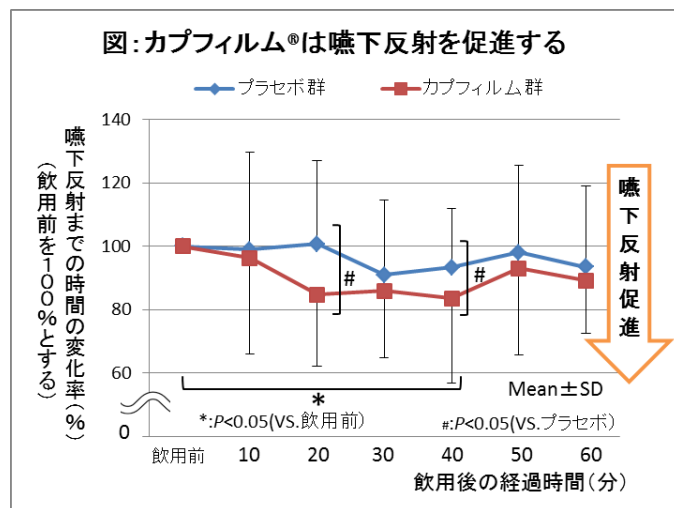
唐辛子に含まれるカプサイシンは、嚥下反射を起こしやすくする作用が報告されています¹⁾。山田養蜂場では、カプサイシンを手軽に摂取できるよう、舐めて飲用できるトローチ型サブリ「カプリング®」を開発しましたが、お客様の声をもとにさらに改良し、口の中ですぐに溶けるフィルム型サブリ「カプフィルム®」を開発しました。今回は「カプフィルム®」が嚥下を促す効果について、プラセボ対照クロスオーバー二重盲検法で検討されました。



【試験・結果の概要】

20~40歳の成人男性17名を2群に分け、カプフィルム®(カプサイシン含有)、カプサイシンを除いたプラセボフィルムのどちらかを1枚飲用してもらい、簡易嚥下誘発試験^{※2}にて、飲用前と飲用後10分ごとの嚥下反射機能を調べ、1週間後にフィルムを入れ替えて同様の試験を行いました。

カプフィルム®群では、飲用前に比べて、飲用40分後に有意に嚥下反射の促進がみられ、プラセボ群と比較しても、飲用20分後、40分後で、有意に促進されることがわかりました(図参照)。このことから、カプフィルム®は食事の20~40分前の飲用が、嚥下を促す飲み方として効果的であると考えられます。



【村田助教コメント】

嚥下機能の改善は、高齢者の誤嚥性肺炎の予防だけでなく、食事の楽しみやコミュニケーションの場を作るなど、健全な食生活の維持にも繋がります。本研究結果が多くの方のQOL(生活の質)向上に役立てれば幸いです。

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社山田養蜂場 文化広報室 関(ts0975@yamada-bee.com) 〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場194
TEL:0868-54-1906 (月~金 9:00~17:30、土日祝除く) / FAX:0868-54-3346 / HP:http://www.3838.com
みつばち健康科学研究所 HP:http://www.bee-lab.jp / Twitter:@yamadabeelab / Facebook:https://www.facebook.com/bee.lab.3838

【製品紹介】

商品名称:カプフィルム® 価格:3,240 円

内容量:96 枚(1ヵ月分) 使用目安:1回1枚、1日3回飲用

飲み込むチカラをサポートするカプサイシンと、
サブスタンス P^{※3} の分解を抑制する酵素分解ローヤルゼリーと、
サブスタンス P の産生を促進するテアニン^{※5} を配合。
口腔内で素早く溶けるフィルムタイプで、少ない唾液でも溶解し、
手軽に飲用できます。



【用語説明】

※1 嚥下反射機能…飲食物を飲み込み食道へ送るといふ、体の動きを起こす反射機能。

※2 簡易嚥下誘発試験…鼻からカテーテルを挿入し、少量の蒸留水を直接咽頭に注入して嚥下が始まるまでの時間を測定する試験。時間が短いほど嚥下反射が促進され、スムーズな嚥下であることを示す。

※3 サブスタンス P…嚥下反射を起こすために必要な神経伝達物質。

※4 テアニン…お茶に含まれるアミノ酸の一種で、旨み成分の一つ

【参考文献】

1)海老原覚,難病と在宅ケア,15,55-58(2009)

【出典】本リリースでご報告した研究成果は、下記の論文で発表されています。

Goto T, Murata N, Maekawa K, Kanda Y, Kobayashi Y, Mori T, Miyawaki T, Egusa M,
Facilitatory Effect of an Applying Capsaicin-Containing Film on Initiation of Swallowing Reflex.
日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌, 17(3) :209-216, 2013.